

# 時潮の流転

(昭和十四年寢歌)

望月真三郎君 作歌

竹村伸一君 作曲

## 一

時潮じてうの流転ながれそう淙々そうと  
四季とき乾坤けんこんに巡りめぐ立つ  
去来きよらい常いつねなく人ひと変りかは  
有情うじやう無為むゐの時鐘かねの音ねに  
孤城こじやうの爽春はるは未だまだ浅しあさ

## 二

遠くとほ流離りうりの春はるに来てき  
此この高楼たかのうに春愁うれひつつ  
郭公くわくこう鳥とりの鳴くなさへも  
多感たかんの児等こちの情懷むね熱くあつ  
懷古くわいこの涙溢なみだあふるべし

## 三

真日まひ澄すむ北きたの蒼穹そらはるか  
飛燕ひえんひとたび音なに鳴なげば  
桃李たうりの華影かげは瘦やせゆきて  
あはれ旅寝たびねの若きわか遊子ごよ  
帰南きなんの郷愁おもひしきりなり

## 四

夕陽せきやう西にしに落ちお行ゆけば  
白樺しらば林はやし朱しに染しみ  
暮秋ぼしうの颯かせは飄々へうへうと  
時艱じかんを憂うれふ国くにの子この  
悲腸ひちやうの声こゑに似にたるかな

## 五

北斗ほくとう地平ちへいに揺曳ゆゑぐとき  
天地てんちの四大しだい霜しもと凝りこ  
四寮しれうの高夢ゆめも凍いてつきて  
ほがらほがらの朝あさぼらけ  
帰雁きがんの孤影かげよ月つきに飛とぶ

## 六

明日あす別わかれ行く旅人たびとの  
春はるの夕ゆふべの宴遊うたげかな  
かへらぬ絢夢ゆめをしのびつつ  
生命いのちの故郷さとと慨嘆なげきしも  
すでに三星みつとせ霜くさの草枕まくら